

## 他自治体における小規模校対応例

1. 埼玉県八潮市（人口約 9 万人）
2. 長野県小諸市（人口約 4 万人）

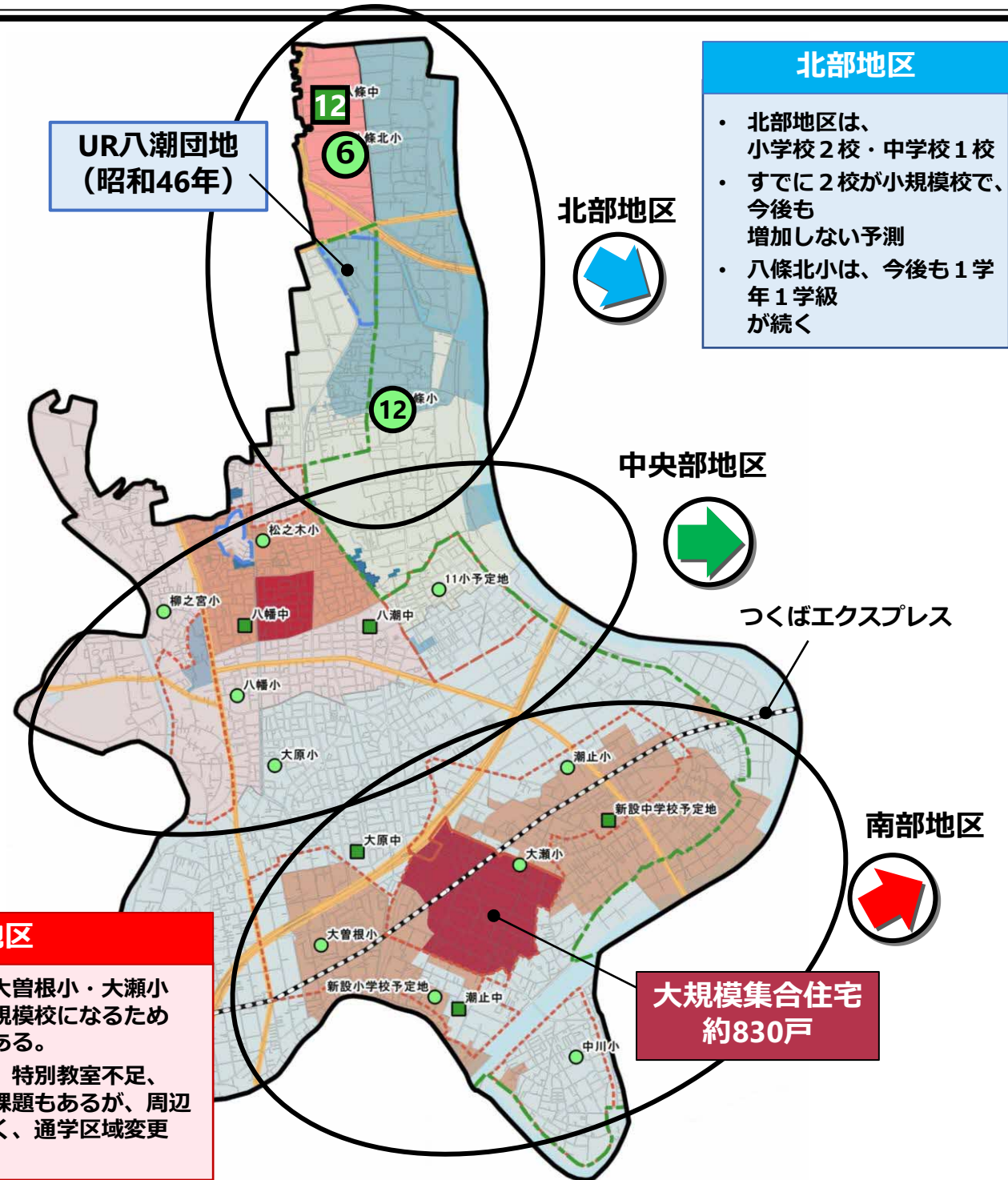
# 1. 埼玉県八潮市

○小学校 (●) : 10校  
○中学校 (■) : 5校 計15校

○地域区分 : 3地区  
(北部・中部・南部)

## ○現状と課題

- ・ 北部の八條中は、小規模の状態が継続する。
- ・ 北部の八條北小は、全学年、単学級の状態が継続する
- ・ 南部では、過大規模校となり、教室不足が発生する恐れがある学校が複数存在する。



**北部地区**

- ・ 北部地区は、小学校2校・中学校1校
- ・ すでに2校が小規模校で、今後も増加しない予測
- ・ 八條北小は、今後も1学年1学級が続く

**中央部地区**

つくばエクスプレス

**南部地区**

- ・ 駅周辺開発に伴い、大曾根小・大瀬小大原中・潮止中が大規模校になるため適正化を図る必要がある。
- ・ 大瀬小・潮止中では、特別教室不足、体育館の狭あい等の課題もあるが、周辺小学校にも余裕がなく、通学区域変更では対応が難しい。

**大規模集合住宅  
約830戸**

出典：「八潮市学校適正配置指針・計画（令和2年3月）」を基に作成

# 1. 埼玉県八潮市

## ○アンケート調査結果より

### 【小学校保護者】

「学校区を変更する」が最も高く、次いで「小規模特認校制度を行う」が高い。

### 【未就学児保護者】

「小規模特認校制度を行う」が最も高く、「近隣の学校と統合し、片方を廃校する」はそれほど高くない。小学校保護者では5割を超える「学校区を変更する」が、未就学児保護者では2割程度となっている。

### 【教職員・学校運営協議会委員】

ともに「通学区域の弾力化を行う」、「小規模特認校制度を行う」、「近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校を新設する」が高く、殆どで5割を超えている。一方、「複式学級になっても存続させる」や「ICTを活用した遠隔授業を実施し、存続させる」は低くなっている。

## ○適正配置の方向性（計画）（抜粋）

### 【第1期（R2～R11）】

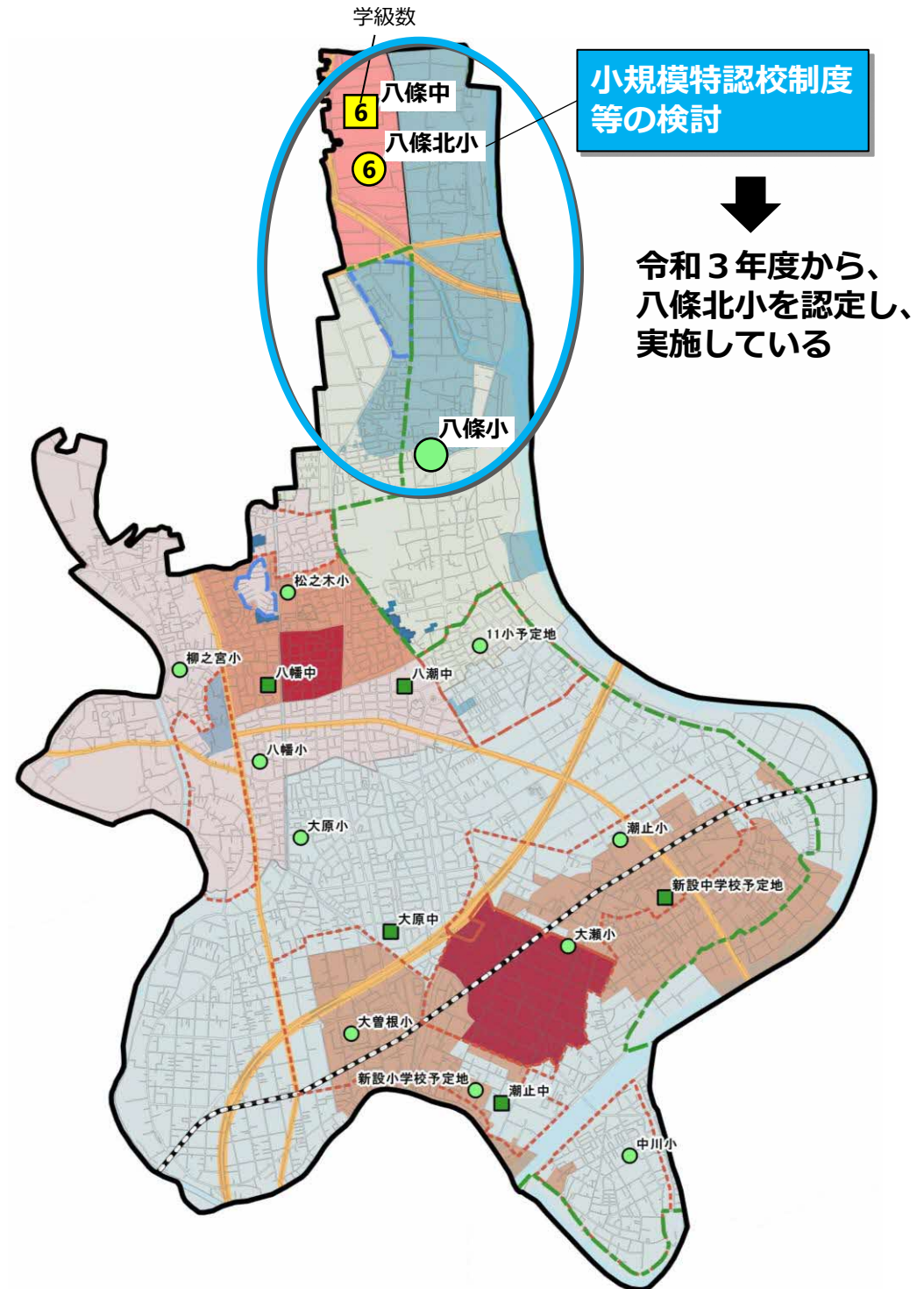
- ①：八條北小学校においては、小規模特認校制度など、小規模校のメリットを最大限活かすことについて検討し、魅力ある学校づくりのための制度を創設し、児童数の増加を促進する。
- ②：①の方策において一定の成果が出ないと教育委員会で判断した場合、又は2つ以上の学年で編成する学級が生じる場合には、統合の対応について検討を開始する。その際は、地域の意見を聴くとともに、統合の方法や登校の手段や方法についても検討する。

### 【第2期（R12～R21）】

- ①：八條小学校の耐用年数に留意し、建替え等の対応を検討する。検討の際は、第1期の状況を踏まえる。

### 【第3期（R22～R31）】

- ①：学校の規模適正化の考え方（指針・基準）による対応を行う。

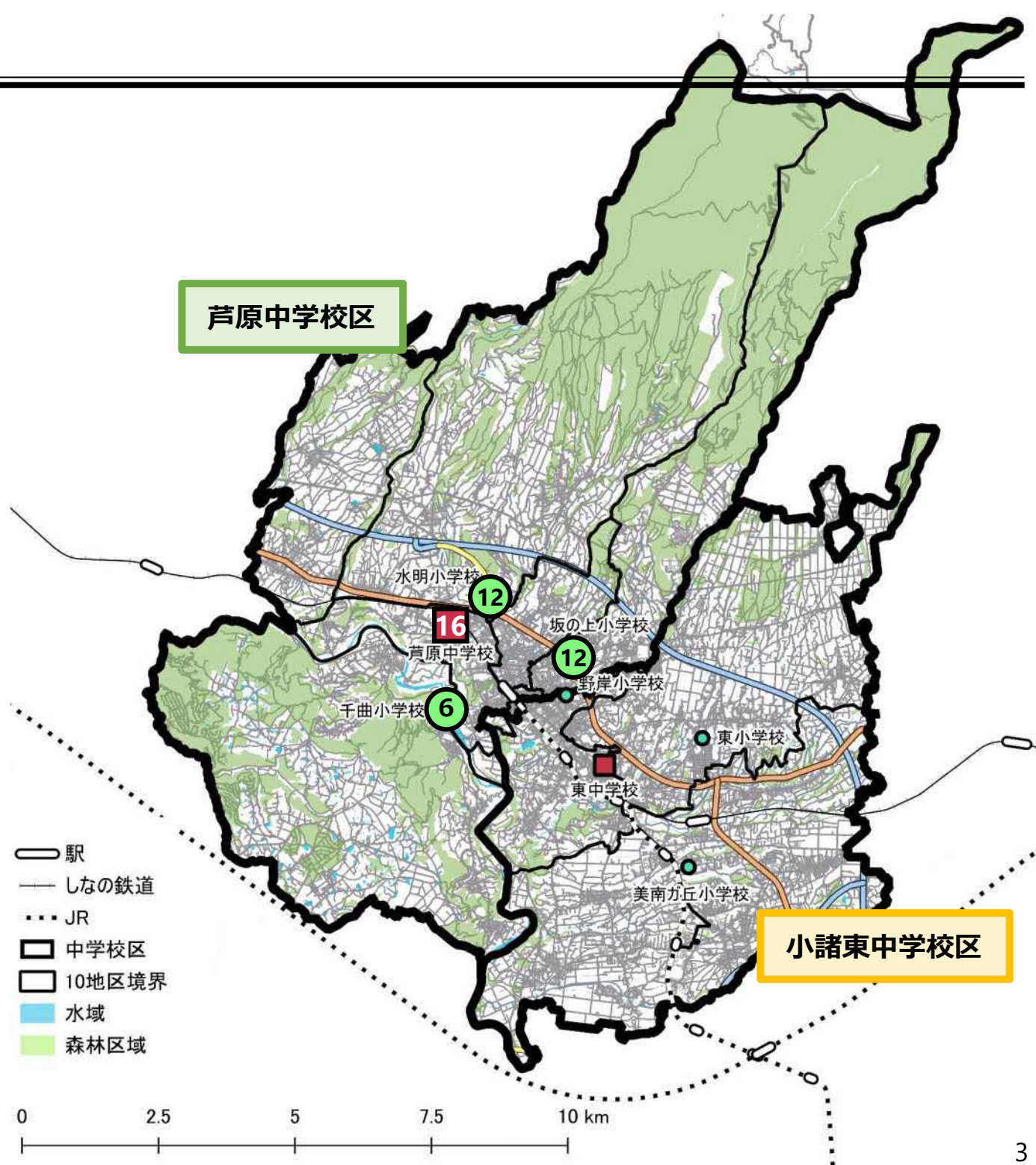


## 2. 長野県小諸市

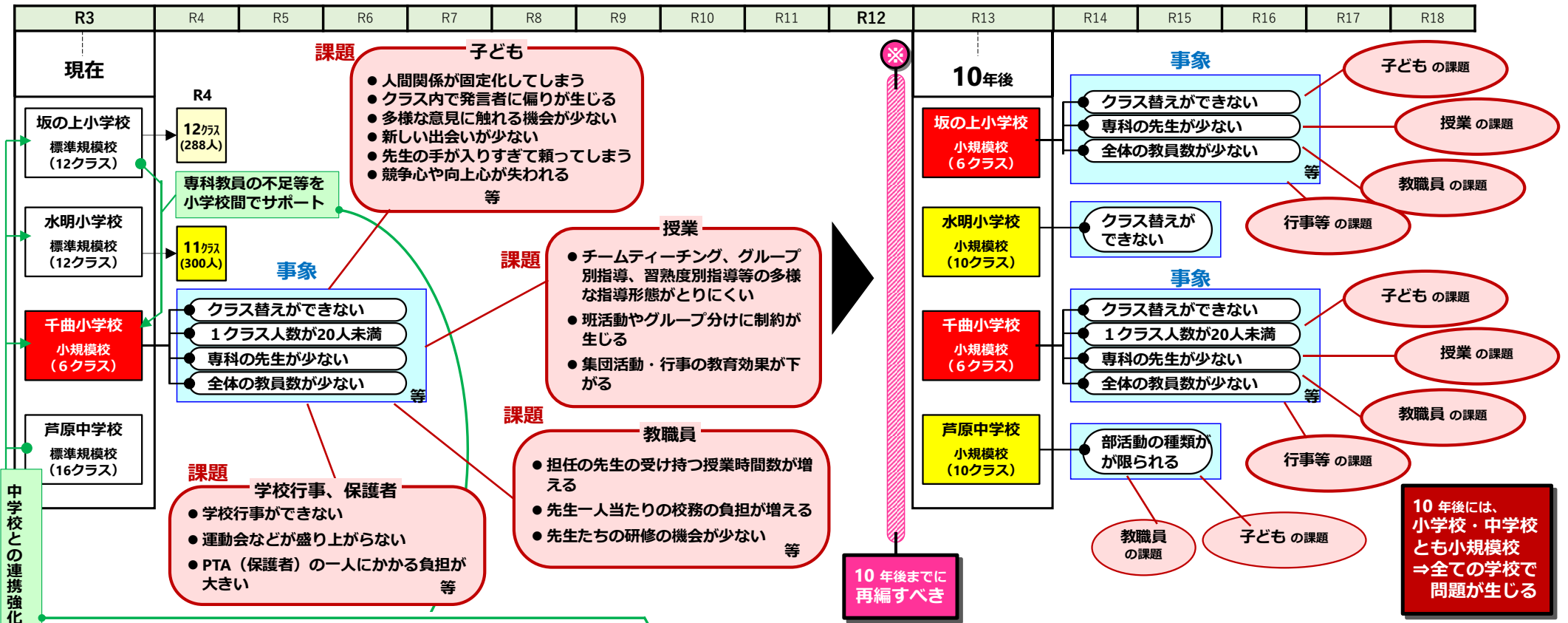
○小学校 (●) : 6校  
○中学校 (■) : 2校 計8校

### ○現状と課題

- ・ 芦原中学校と小諸東中学校の2つの中学校区にそれぞれ小学校が3つ配置されている。
- ・ 芦原中学校区の小規模校化が進行し、数年後には3小学校とも小規模校となる予測
- ・ 3小学校中2校が6学級（全学年1クラス）になる10年後までに再編を行う。
- ・ 再編整備と合わせて、コミュニティスクール化等により地域の拠点化を図る。



# 2. 長野県小諸市〈現状を今後も維持していく場合の課題と再編までに今後行うべき対応〉



**再編までに対応する対応**

① 遠隔授業の実施

離れた2つの学校で同時双方向コミュニケーションを取りながら学習を進める

例: 坂の上小 (例: 千曲小)

インターネット

画面を共有

児童が自分の意見を端末機器(タブレット)に入力

児童35人+教員がICT機器を活用して場所の離れた学校と遠隔でつながる。

先生

児童が自分の回答を端末機器(タブレット)に入力

児童に対して、ICT機器の操作や学習等をサポートする補助員が付き、授業を進める。

② 中学校と各小学校との連携強化

小諸東中学校区との連携

- 児童生徒のつながりの場・機会をつくる
- 中学校専科教員の授業を小学生が受講

中学校専科教員の授業を小学生が受講

合同で清掃活動

小中合同で児童会・生徒会活動

- 小学生が、中学校教員から専科の授業を受け、中学校の授業をイメージしやすくなる。
- 小学校から中学校へスムーズに移行できるよう、それぞれの教職員が連携

③ 家庭：学んだ内容の定着を図る自学自習

芦原中学校区 小諸東中学校区

- 家庭に端末機器(タブレット)を持ち帰り、自宅で自学自習へつなげるため、つまづきを克服しながら学んだ内容の定着を図ることができる。
- 教員が、端末機器(タブレット)内に管理された学習履歴を確認し、子どもの学習状況を把握できる。(タブレット・ノートパソコンの導入はすでに実施)

④ カリキュラムの統一

芦原中学校区 小諸東中学校区

- 2中学校区間でのカリキュラムの統一を図る。

⑤ プールの共用化の実践

- 地元のスポーツ施設との連携
- プールの共用化

小諸東中学校区

民間のスポーツクラブ(ブルーマリンスポーツクラブ株式会社)

